

# 「結果生かせるのか？ 結果減ぼすのか？」

ヤコブ 5:19 ~ 20

## ■ 本当のコミュニティ

世界中どこにいても心の問題というのは存在します。そのなかでもうつ病というのは、貧しい国の人たちではなくほとんどが先進国の人達に起こる病だそうです。その違いはコミュニティがあるかないかです。これまでの日本の教会の歴史は、教会と地域が分断されていました。しかし本来は教会がコミュニティの中心になければなりません。ではコミュニティの回復とはどういうものなのか。私たちは様々な人生を歩んできました。またそれぞれの家の考え方によって育てられてきました。だから様々な価値観が存在します。しかし大切なことは、それが本質であって真理であるのかということです。もし、周りの人や状況にずれがあるのであれば、私たちはそれを戻さなければなりません。

## ■ 結果から自分の行いを考える

聖書は結果論ではありません。だから私たちは結果に目をとめてはいけません。しかし私たちの目的とプロセスが正しければ、結果実を残すことになるのです。私たちは結果を求めてしまいます。子育てでも、「いい子に育てよう」「いい大学に行かせよう」というように結果を求めてしまいます。しかし大切なのは、どうしてそれをさせたいのかということです。もし今、親である自分が死んだら、その子は自分の力で生きて行けるでしょうか。また自分の人生の目的に生きれるでしょうか。だから親が子供に手をかけてはいけません。それは聖書に書いてある方法だからです。自分の考えを捨てて、聖書の本質に戻らなければなりません。本来は結果に目を向けてはいけません。しかし今日だけは結果に目を向けていきたいのです。今私たちがしていることで、結果人を生かすでしょうか。もしくは結果減ぼすでしょうか。御言葉にあるように真理に戻す行為が人を生かすことであり、戻さない行為が人を減ぼすことなのです。今日もう一度自分の行いを考えてみましょう。

## ■ 真理から迷い出るものを生かす言葉

真理から迷い出るとは、神様とその人の本質からずれている事です。では本質とはなんのでしょうか。それは愛です。しかしその愛を正しく理解しなければなりません。ペテロは何度も失敗した人物でした。イエスのために命をかけると思っていたペテロですが、3度も彼を知らないと言い、イエスを裏切りました。その後、十字架刑にかかり、復活されたイエスは、ガリラヤ湖のほとりでペテロに「あなたはわたしを愛するか。」と語りかけます。何度もイエスを裏切ったペテロは、はっきりと「はい、愛します」とは言えませんでした。だから「あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」と答えました。そんなペテロにイエスは、そんな条件付きの愛でもいいから、それでもわたしの羊を牧しなさいと語ったのです。誰かに裏切られたとき、怒ってしまうのが私たちです。しかしイエスは相手を生かすための言葉を語ったのです。生かすための言葉は、同情したり、怒ったり、自分のための言葉ではありません。

## ■ 本当の愛

聖書の中に「かわいそう」という言葉が出てきますが、これはギリシャ語で「憐れんで」という意味があります。聖書の中の憐れむということは、世の中のかわいそうという言葉とは違います。転んで擦りむいている人を見て、自分の経験と照らし合わせて同情し、その場しのぎで助ける。これは聖書の憐れみではありません。無責任に何かを与え続けることは、愛ではなく、「かわいそう」という間違った感情です。愛とは十字架の愛です。相手に嫌われようが、命がけて相手と向き合う。それが本当の愛です。そして教会とはそういう場所であるべきなのです。

## ■ 実を残す本質の愛

「サイレント・プア」というドラマがあります。法律と法律のはざま、貧しさの中にある人達。孤独死をするお年寄り、虐待を受けている子ども達、引きこもっている人達、

障害をかかえ生きづらさを抱えた人達。法律では援助がないそんな少数の人達をケアする、あるソーシャルワーカーの人をモデルにしたドラマです。彼女は仕事としてではなく、真剣に相手を受容しようとします。そして問題の本質を見極め、根本を解決していきます。そんな彼女の本質の愛は周りの人々を導き、仲間にしていきます。そして実を残すので、周りから尊敬され、コミュニティを形成していきます。彼女の口癖は「道が無ければ作ればいい」だそうです。神様も道を造られるお方です。クリスチャンであろうが、なかろうが、この本質の愛を守っていれば実が残るのです。

## ■ マタイ 18:11 ~ 15 から

マタイの18:11~14には、九十九匹の羊をおいても、迷った一匹の羊を探し出すという有名なたとえ話が書かれています。では迷った一匹の羊を探し出すとはどういうことなのか、ということがその先の15~17節に書かれています。もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、ふたりだけのところで責めなさい。(15節) 次は他にひとりかふたりを連れて行きなさい。(16節) 次は教会をたてて行いなさい。(17節) と言われています。罪に迷い出た人を一緒になって回復させる。これが聖書が伝えていることです。神様は私たちをどう導いてくれたのでしょうか。神様はいつも私たちと共にいてくださいます。しかしいつも声をかけてくださる訳ではありません。私たちが見いだすまで待つておられるお方です。そして見いだせるようにいつもそばで聞いてくださいますが、その時にはそれに気づきません。しかし苦しみや試練を通るとき、あきらめないでいると、すべてが益となって神様の栄光があらわれるのです。

## ■ あなたの愛は多くの罪を覆うこと

(ルカ9:23)だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。(マタイ11:28~30)すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。

愛とはその人の罪を背負うということです。私たちは自分の重荷を背負うことはできません。しかし、その重すぎる重荷をイエス様が背負ってくださいます。だから私たちは隣人の重荷を背負うことができるのです。私たちが愛すると、その人の罪を覆うことができます。

## ■ さいごに

人を造り変えることは本物によってでしかできません。本物として造られたものが、もし偽物にされているのなら、造った人のもとに帰り、造り変えてもらうしかありません。私たちは暗闇の世の中で光を灯し、神様のもとに人々を導く入り口です。その中で神様は私たちの過去の傷をも癒そうとしています。育ってきた境遇、今置かれている痛み、悲しみ。もう一度神様の前に差し出して感謝しましょう。心がついてこないかもしれません。それでも「感謝します」と祈るのです。そうすると神様は私たちが倒れないように、起き上がるように祈ってくれます。イエス様は私たちの先に立ってくださり、戦い方を教えてくださいました。その戦い方は愛です。自分のためではなく、相手のために立ち上がる行為。これが十字架の愛です。この十字架から目を離さないでください。イエス様は何のために十字架に架かったのでしょうか。それは私たちが同情ではなく、本当の愛でその人を愛するためです。イエス様の生き様を、私たちが生きていくことができますように。

(要約者:永井 匡史)

(2021年2月28日)